第一章　一般施設

明治三十六年十二月、日露兩國間時局ノ危機漸ク切迫スルヤ、同月二十三日臺灣總督府海軍參謀長海軍中佐山縣文藏ハ、伊東海軍軍令部長ヨリ、各國軍艦及ヒ露國ヤ旗ヲ掲クル商船ノ臺灣沿岸ニ於ル發著ヲ電報スヘシ、トノ命令ニ接シタルヲ以テ、之ヲ關係ノ向ニ通知ス、尋テ二十五日海軍次官齋藤實ヨリ、在臺灣海軍豫備後備下士卒ニシテ、召集猶豫ヲ要スルモノヲ至急取調ヘ、海軍大臣ニ上申セラレタシ、トノ電報ニ接シタルヲ以テ、三十日臺灣總督男爵兒玉源太郎ハ、山本海軍大臣ニ右上申ヲ爲ス、

越エテ三十七年一月五日山縣參謀長ハ、山本海軍大臣ヨリ、當分ノ內豫メ海軍大臣ノ許可ヲ得タルモノヽ外、艦隊艦船軍隊ノ進退其ノ他軍機軍略ニ關スル事項ヲ、新聞紙ニ記載スルコトヲ禁セシ旨ノ電訓ニ接シタルヲ以テ、民政長官後藤新平ニ交渉ノ結果、同取締ニ關スル府令ヲ發布スルコトヽナレリ、八日伊東海軍軍令部長ヨリ、外國商船ノ露領各地ヘ到ル目的ヲ以テ、臺灣ノ諸港灣ニ發著スルモノヲ電報スヘキ旨ノ通牒ニ接シ、後藤民政長官ハ直ニ各方面ニ向ヒテ、之ヲ海軍幕僚ニ電報スヘキ旨ヲ通告シタルニ、同日英國汽船「ヲットリデー」號露國海軍用石炭四千餘噸ヲ積載シ、旅順口ニ向フノ途中、基隆ニ入港シタルヲ以テ、山縣參謀長ハ、直ニ之ヲ伊東海軍軍令部長ニ電報ス、又同日山本海軍大臣ヨリ、海外ニ發送スル重要電報ノ轉電ニ關シ、內訓アリタルヲ以テ、其ノ處理ニ關シ、同大臣ニ具申スルトコロアリ、（第四部第三篇參照）此ノ日馬公要港部ヨリノ依託ニ依リ、基隆臨時敷設隊兵舍及ヒ病室新設ノ設計ヲ、民政部土木局ニ依頼シ、翌九日之ヲ了シ、該豫算額等ヲ馬公要港部ニ電報ス、

一月十二日山縣參謀長ハ、佐世保鎭守府參謀長海軍大佐上原仲次郎ニ向ヒテ、戰時編制ノ實施セラルヽニ際シ、臺灣島防禦工事ノ施行ニ關シ、交渉スルトコロアリシニ、翌十三日上原佐世保鎭守府參謀長ヨリ、右工事ノ施行ヲ依頼シタキ旨、及ヒ佐世保海軍經理部長海軍主計大監相原益功ヨリ、右工事ノ施行ニ關シテハ、材料調達竝ニ契約締結ヲモ委任シタキ旨ノ電報ニ接シタルヲ以テ、十四日後藤民政長官ニ向ヒ、佐世保鎭守府ヨリ委囑ニ係ル防禦工事一切實施ノ際ハ、土木局及ヒ通信局ニ於テ擔任セシメラレンコトヲ照會ス、十五日山縣參謀長ハ、齋藤海軍次官ヨリ、新聞紙掲載禁止事項標準（第五部第一篇參照）ノ通報ニ接セシヲ以テ、直ニ之ヲ關係ノ向ニ通知ス、十六日後藤民政長官ハ、防禦工事擔任技師ヲ左ノ如ク指定ス、（臺灣島及ヒ澎湖島ニ於ル工事ニ關スルコトハ第八部第四篇參照）

總督府技師　野村一郎
同　蜷川滋德

土木建築工事

通信工事

是ヨリ先キ一月十三日山縣參謀長ハ、馬公要港部ノ依頼ニ依リ、三十六年度防禦計畫ニ基キ、傭入ヲ要スル船舶ノ費用調査ヲ爲シ、尋テ十六日臺灣ニ於ル望樓ハ、出來得ル限リ燈臺ト兼用スルコトヽシ、之ヲ佐世保鎭守府參謀長及ヒ經理部長ニ電報シ、十九日澎湖築城支部長ニ向ヒ、防禦計畫實施ニ際シテハ、澎湖島方面ノ急造砲臺ノ築設工事ヲ擔任セラレンコトヲ照會シ、同時ニ馬公要港部司令官海軍少將尾本知道ニ向ヒ、該工事ノ設計ニ關シ、同支部長ト協議セラレン

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

コトヲ照會ス、二十日基隆築城支部長ニ照會スルニ、防禦計畫實施ニ際シ、基隆港急造砲臺ノ築設工事ヲ擔任セラレンコトヲ以テシ、又望樓材料ノ準備ニ著手ス、二十一日尾本馬公要港部司令官ヨリ、臺灣島ニ於ル望樓位置選定ノ委託ヲ受ク

二十二日兒玉臺灣總督ハ、臺灣守備軍司令官陸軍中將黑瀨義門ニ、海軍防禦作戰ニ基ク一切ノ軍務ヲ委任ス、

二十四日各望樓建設材料ノ準備整頓ス、而テ同日山縣參謀長ハ、相原佐世保海軍經理部長ヨリ、澎湖島水雷衛所竝ニ電話線架設材料準備ノ訓令アリタル旨ノ電報ニ接シ、直ニ之カ準備ニ著手ス、二十五日馬公要港部及ヒ大甲支廳長ニ、望樓材料ヲ回送スヘキヲ以テ、之ヲ保管セラレンコトヲ依賴ス、

二十六日山縣參謀長ハ、相原佐世保海軍經理部長ヨリ、澎湖島及ヒ大甲ニ於ル電話線架設材料準備ノ訓令アリタル旨ノ電報ニ接シ、直ニ之カ準備ニ著手ス、

三十日山縣參謀長ハ、大甲假設望樓位置選定ノ爲メ大甲ニ到リ、又通譯官岡田晉一郎ヲシテ、望樓ニ兼用スヘキ各燈臺ノ實況ヲ取調ヘシム、而テ同參謀長ハ、二月二日歸府シ、翌三日山本海軍大臣ニ、大甲望樓ノ位置ヲ通宵ニ變更セラレンコトヲ稟申シ、四日之カ認許ヲ受ク、

二月三日山縣參謀長ハ、野村技師ニ、正門角外三箇所ノ望樓信號杆材料ヲ、蜷川技師ニ、澎湖島電話架設材料ヲ發送スヘキコトヲ命シ、又民政部通信局ニ、燈臺用旗竿ヲ信號杆ニ改造スルコトニ關シテ交渉ヲ爲ス、尋テ五日野村技師ニ、大甲ニ送ルヘキ望樓材料ヲ通宵ニ送ルヘキヲ命シ、通宵支廳長ニ依賴スルニ、該材料ヲ保管セラレンコトヲ以テス、

五日山縣參謀長ハ、基隆廳及ヒ稅關支署ヨリ、獨國商船「ゲイミピイタール」號基隆ニ入港シ、同船長ハ重要ナル機械類ヲ搭載シ、旅順若クハ浦鹽ニ急行ノ筈ナルモ、之ヲ露國官憲ニ渡スコトヲ好マス、故ヲ以途中ニテ時日ヲ費シ、日本軍艦ノ捕獲ヲ望ム、日本ハ何故ニ早ク開戰セサルヤ、何故ニ抑留セサルヤ等聲言スルヲ以テ、之ヲ抑留シテハ如何、トノ報告ニ接セシモ、未タ開戰前ナルヲ以テ、國際紛爭ノ基ヲ起ス如キ行爲ヲ避クルヲ至當ト認メ、基隆廳ニ此ノ旨ヲ通スルト共ニ、其ノ筋ニ電報シタルニ、抑留等ノ行爲ニ出ツ可カラス、トノ返電ニ接ス、（二月七日石炭四百七十噸ヲ積載シ膠州灣ニ向ヒテ出港ス）同日露國トノ外交關係ヲ斷絶シ、艦隊ニ發進命令ヲ下シ、明治三十六年度海軍戰時編制ノ實施ヲ令セラルヽヤ、山縣參謀長ハ、民政部土木局長心得長尾半平及ヒ通信局長鹿子木小五郎ニ照會スルニ、既ニ準備セル防禦工事ニ著手セラレンコトヲ以テス、此ノ日海軍豫後備員一部ノ召集令發セラレ、陸軍ニ在リテハ澎湖島要塞ノ動員及ヒ基隆要塞ノ警急配備ヲ令シ、蘇澳、三貂角、淡水、舊港、抗內庄、鹿港、布袋嘴、安平、打狗ニ海岸監視哨ノ開設ヲ令ス、

六日山縣參謀長ハ、野村技師ニ命スルニ、基隆防禦工事ノ一部ニ著手スヘキヲ以テス、而テ同日山本海軍大臣ヨリ、臺灣及ヒ澎湖島防禦假設工事ヲ佐世保鎭守府司令長官ニ訓令セリ、トノ電訓ニ接シタルヲ以テ、直ニ之ヲ擔任技師ニ命ス、而テ同日總督府警察本署ニ於テハ、臺灣島及ヒ澎湖島海岸ノ各要所ニ見張所ヲ設置シ、警察官ヲ配置ス、

七日山縣參謀長ハ、鮫島佐世保鎭守府司令長官ニ向ヒ、防禦工事中、從前訓令ナキモノニ對シ著

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

手方認許アル樣、上申セラレンコトヲ照會ス、

八日山縣參謀長ハ、齋藤海軍次官ヨリ、春日、日進ノ兩艦ハ、十日午前ヨリ十二日午後マテノ間ニ於テ、南岬沖ヲ通過スルノ豫定ナルニヨリ、充分注意セラレタシ、トノ電報ニ接シタルヲ以テ、之ヲ各方面ニ通告シ、若シ兩艦ノ通過ヲ認メハ、祕密ニ通報セシムルコトヽナス、同日山本海軍大臣ヨリ、澎湖島ポン角衞所附屬兵舍及ヒ賄所、便所工事ニ著手スヘキノ訓令ニ接シタルヲ以テ、直ニ之ヲ主任技師ニ命ス、

九日馬公要港部專用運送船立神丸、基隆ニ入港シタルヲ以テ、山縣參謀長ハ副官海軍少佐磯部謙ヲ基隆ニ遣シ、豫テ準備セル諸材料ヲ同船ニ搭載シ、澎湖島ニ輸送ノ手配ヲ爲サシメ、同船々長ニ左ノ命令ヲ與フ、

其ノ船ハ澎湖島ニ回送スヘキ建築及ヒ通信諸材料竝ニ陸軍補給支廠ヘ送付スヘキ諸貨物ノ搭載終ヲハ直ニ出港馬公ニ回航スヘシ

而テ澎湖島ニ於ル防禦工事監督員トシテ、民政部土木局ヨリ技手一名雇員一名ヲ派遣ス、（立神丸ハ十一日午後二時基隆ヲ出港ス）此ノ日兒玉臺灣總督ハ充員召集ノ爲メ、臺灣ヨリ內地ニ歸還スル者ニハ、臺灣島內汽車無賃乘車ヲ特許ス、

十一日山縣參謀長ハ、軍事總監海軍少將齋藤實ヨリ、日露兩國ノ戰鬪ニ關シ、現在未來ノ行動ハ、一切新聞紙ニ揭載ヲ許サヽル旨、通報ニ接シタルヲ以テ、之ヲ民政長官及ヒ陸軍幕僚參謀長ニ移牒ス、

同日淡水福州間電線不通トナリ、其ノ損所ハ尖石山陸揚地附近ニアルヲ發見ス、之ニ關シ山縣參謀長ハ、山本海軍大臣ニ報告スル所アリタルノ結果、同大臣ハ遞信大臣大浦兼武ニ照會シ、大浦遞信大臣ハ、大北電信會社ヲシテ之カ修理ヲ行ハシメ、電線敷設船「ノルデスチ」號ハ該電線修理中、紀攝丸ヲ借受ケ、共同修繕ニ從事ス、該電線不通ノ原因ハ、漁船ノ所爲ナルカ如キモ、其ノ情況視察ノ爲メ出張セル陸軍幕僚參謀陸軍歩兵大尉大野豐四ノ調査ニ依リ、福州電信局及ヒ同地稅關ノ內部ニ大ニ怪シムヘキ點アルヲ認メタルヲ以テ、黑瀨守備軍司令官ハ、同參謀ヲ事情具申ノ爲メ大本營ニ派遣ス、又福州香港間ノ電信モ一時不通トナリシカ、暫時ニシテ回復ス、

十二日山縣參謀長ハ、東洋ニアル諸外國艦艇ノ影圖ヲ印刷シ、陸軍各監視哨及ヒ警察官各見張所ニ配付ス、而テ此ノ日鵞鑾鼻燈臺ヨリ、二檣ノ前後ニ煙突各一ノ軍艦一隻、遠距離ヲ通過ス、トノ電報ニ接シタルヲ以テ、山本海軍大臣ニ左ノ電報ヲ發ス、

春日日進ノ內ト思ハル、一軍艦本日午後五時四十二分南岬沖ヲ西ヨリ東ニ通過ス

十四日山縣參謀長ハ、山本海軍大臣ヨリ、澎湖島風櫃尾砲臺其ノ他ノ工事ニ著手スヘシ、トノ訓令ニ接ス、而テ澎湖島ニ於ル防禦諸工事、竝ニ大甲望樓工事ニ著手ス、（三月三日大甲假設望樓落成ス依テ山縣參謀長ハ通宵支廳ニ委託スルニ望樓員派遣之ヲ保管セラレンコトヲ以テス）

十五日尾本馬公要港部司令官ハ、臺灣沿岸航路ニ使用スル大阪商船株式會社傭外國船ノ馬公要港ニ出入スルコトヲ禁止ス、

翌十六日山縣參謀長ハ、山本海軍大臣ヨリ、基隆万人堆鼻砲臺其ノ他諸工事ニ著手方ノ訓令ニ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

接シタルヲ以テ、蜷川技師ニ命スルニ、基隆ニ於ル電話線架設工事ニ著手スヘキヲ以テシ、十七日基隆燈臺用倉庫二棟ヲ、基隆臨時敷設隊用トシテ借入レノ件ヲ民政部通信局ト交渉シ、又基隆防禦工事施設ノ爲メ、陸軍用地使用ノ件、竝ニ電話線架設ノ爲メ、陸軍用在來ノ電柱兼用ノ件ヲ、基隆要塞司令部ト交渉シ、防禦工事施設ニ要スル民有地使用ノ件ヲ、基隆廳ヲ經テ各所有主ニ交渉シ、防禦工事ニ著手ス、(三月十八日基隆側防砲臺ハ砲ヲ裝備スルニ及ハサル旨馬公要港部司令官ヨリ基隆臨時敷設隊司令ニ電訓アリタルヲ以テ築城部基隆支部長ニ照會スルニ該工事ヲ中止セラレンコトヲ以テス)此ノ日各望樓工事ハ、本月中ニ竣工セシメラレンコトヲ、民政部土木局ニ交渉ス、次テ十八日山本海軍大臣ヨリ、各望樓建設地及ヒ基隆社寮島ニ井戸若クハ貯水所設置ノ電訓ニ接シ、直ニ之ヲ主任技師ニ命ス、

十九日午後三時十五分、福州淡水間ノ電線全通セルモ、一般電報ハ當分之ヲ取扱ハス、而テ翌二十日山縣參謀長ハ、海軍軍令部次長海軍中將伊集院五郎ヨリ、海底電線全通ノ事ハ、當分祕密ニ附セラレタシトノ電報ニ接ス、

二十二日山縣參謀長ハ、山本海軍大臣ヨリ、馬公要港部病室及ヒ傳染病舍ノ修理、井戸ノ新設及ヒ小頭角竝ニ大礁鼻急造砲臺築設ニ關スル電訓ニ接シタルヲ以テ、直ニ之ヲ主任技師ニ命ス、尋テ二十三日同大臣ヨリ、基隆敷設隊ノ糧食庫ニ充用スヘキ目的ヲ以テ、小基隆海軍幕僚附屬舍屋ニ修理ヲ加フヘシトノ電訓ニ接ス、此ノ日又同大臣ヨリ、淡水福州間電信ニ關シ、左ノ通報ニ接ス、

臺灣發著ノ官報ハ當分上海線ヲ通過スルカ又ハ尖石山ヲ經由スルトキハ在福州領事ヲ經テ轉送スルコトニ取計ラヒ度旨大北會社ヨリ申出テタリ

同電信ハ何レニシテモ本月二十五日頃ヨリ開通ノ公示ヲ爲ス見込ナリ

而テ二十五日ヨリ淡水福州間電信ハ、一般電報ヲ取扱フ、同日山縣參謀長ハ、基隆臨時敷設隊員ノ兵舍トシテ、一時基隆要塞隊兵舍ノ一部ヲ借入レンコトヲ、同要塞司令部ト交渉シ、又基隆築港局所屬檢潮所ヲ基隆臨時敷設隊ニ使用ノ件ヲ、同局ト交渉ス、而テ此ノ日大甲(通宵)望樓用電話線架設ヲ了ル、

二十七日澎湖島ニ於ル各急造砲臺竣工ヲ告ク、

三月一日山縣參謀長ハ、相原佐世保海軍經理部長ヨリ、馬公要港部糧食庫及ヒ消毒所工事著手方委託ノ電報ニ接ス、尋テ二日中立國ノ船舶ニシテ、戰時禁制品ヲ搭載シ、臺灣諸港ニ入港シタル場合ニ於ル處理法ニ關シ、當該稅關長ト海軍官憲トノ聯絡ヲ規定ス、尋テ五日同參謀長ハ、佐世保海軍工廠ヨリ、基隆臨時敷設隊側防砲據附工事契約手續及ヒ監督方ニツキテ依賴ス、トノ電報ニ接ス、而テ此ノ日立神丸ハ、基隆敷設隊員及ヒ假設望樓員ヲ乘セ、基隆ニ入港シタルヲ以テ、七日望樓員ノ配送ニ關シ、馬公要港部ニ問合ハス所アリシニ、八日正門角、富貴角及ヒ鼻頭角望樓員ハ、基隆ヨリ直ニ任地ニ赴任セシムヘキ樣取計ラハレタシトノ回答アリタルモ、各望樓ニ送ルヘキ諸器械等悉ク混同シ、俄ニ區分シ難キヲ以テ、總テ一旦馬公要港部ニ送リ、然ル後各地ニ配送スルコト、爲シ、九日澎湖島ニ送ルヘキ防禦工事建築材料ヲ、立神丸ニ搭載スルコトトシ、翌十日同船長ニ左ノ命令ヲ與フ、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

貴船ハ基隆臨時敷設隊ノ陸揚ケヲ了ラハ本日中ニ基隆ヲ出港シ馬公ニ回航スヘシ

而テ此ノ日基隆臨時敷設隊ハ其ノ陸揚ケヲ了リ、假ニ基隆要塞兵舍内ニ屯在シ其ノ事務ヲ開始ス、十二日山縣參謀長ハ、相原佐世保海軍經理部長ヨリ、馬公要港部信號兵見張所假設ノ件ヲ依賴スル旨ノ電報ニ接ス、

十六日リッシター角假設望樓工事落成ス、此ノ日山縣參謀長ハ、山本海軍大臣ヨリ、大甲及ヒ馬公要港部無線電信所設置ノ電訓ニ接ス、尋テ十八日通信局長ニ交渉シテ、基隆燈臺所附屬宿舍一棟ヲ、基隆臨時敷設隊用トシテ借入ルヽコトヽス、

十九日山縣參謀長ハ、山本海軍大臣ヨリ、小頭角馬公敷設隊司令部ヨリ、横礁鼻砲臺及ヒ三角島見張所ニ至ル電話線ヲ架設スルコト、及ヒ拱北望樓ハ建築ノミニ止メ、何分ノ命令アルマテ、開始ヲ見合スヘキコトノ電訓ニ接シ、翌二十日佐世保海軍經理部ヨリ、馬公要港部消毒所風壁新設工事ノ依託ニ接ス、

二十一日山縣參謀長ハ、澎湖島出張ノ土木局技手ヨリ、拱北假設望樓ハ、材料ノ切リ刻ミヲ了シ、現場ニ送付シアルモ、天候不良ノ爲メ未タ建設ニ著手スルヲ得ス、トノ電報ニ接セシカ、山本海軍大臣ヨリ、拱北假設望樓建築材料ハ、無線電信所建築材料ニ轉用スヘシ、トノ電訓ニ接ス、

二十三日澎湖島電話線架設工事竣工ス、

二十六日基隆電話線架設工事ノ全部、及ヒ土木建築工事ノ内棧橋「ピッケット」ヲ除クノ外全部竣工シ、二十八日馬公要港部信號兵見張所、及ヒ鵞鑾鼻、正門角、鼻頭角各假設望樓信號杆工事、

及ヒ澎湖島風櫃尾砲臺員詰所、同附屬賄所、便所竣工ス、

尋テ二十九日山縣參謀長ハ、山本海軍大臣ヨリ、澎湖島小頭角馬公敷設隊司令部附屬賄所、及ヒ漁翁島哨所ノ建設ヲ止メ、更ニ牛公灣砲臺員詰所ヲ假設スヘシ、トノ電訓ニ接ス、

三十日基隆棧橋工事竣成ヲ告ク、

四月一日山縣參謀長ハ、大甲及ヒ裏正角假設望樓見張用塔建設ニ著手ス、

三日澎湖島小頭角ヨリ、横礁鼻砲臺ヲ經テ、三角島見張所ニ至ル電話線架設工事竣工シ、四日澎湖島小頭角馬公敷設隊司令部、及ヒ大甲竝ニ裏正角假設望樓見張用塔竣工ス、

六日山縣參謀長ハ、佐世保海軍工廠ニ向ヒ、基隆臨時敷設隊ニ於テ、基隆貯水池ノ破損セルモノヲ電纜貯藏池ニ、及ヒ同石炭庫ヲ倉庫ニ使用シタシ、ト照會セシニ、七日同工廠ヨリ、基隆石炭庫ハ貯炭ノ都合上貸與シ難キ旨回答アリシカ、翌八日基隆貯水池ヲ、電纜貯藏用ニ使用ノ件ハ、差支ナキ旨回答アリ、

是ヨリ先キ六日佐世保鎮守府ヨリ、無線電信柱材料ヲ、立神丸ニテ送リ來リタルヲ以テ、山縣參謀長ハ、直ニ大甲及ヒ澎湖島ニ輸送セシメ、七日山本海軍大臣ヨリ、澎湖島各衞所ニ飲料水「タンク」四箇所ヲ假設スヘキノ電訓ニ接ス、

十五日基隆ニ於ル「ピッケット」建設工事竣工ス、

十九日山縣參謀長ハ、馬公要港部ヨリ、從來同部發著電報ハ、同部ト澎湖島郵便電信局トノ間ニ、電話託送ノ取扱ヲナセシニ、自今之ヲ電信託送ニ變更スル爲メ、其ノ工事施行方ノ依賴ニ接シ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

タルヲ以テ、直ニ之ヲ民政部通信局ニ交渉ス、

五月十一日基隆敷設隊ハ、其ノ編制ヲ解カレ、同隊員ハ運送船芝罘丸ニテ、佐世保鎮守府ニ復歸ス、而テ二十一日山縣參謀長ハ、山本海軍大臣ヨリ、基隆臨時敷設隊用トシテ建設セシ家屋營造物ハ、追テ何分ノ訓令アルマテ、現形ノ儘存置スヘシ、トノ訓令ニ接ス、

五月十九日山縣參謀長ハ、佐世保海軍工廠ヨリ、大甲及ヒ澎湖島ニ設備スヘキ無線電信機ハ、新式ノモノト交換スヘキコトニ決定シタルヲ以テ、其ノ据附ケ及ヒ監督ヲ總督府ニ依頼シタシ、トノ電報ニ接シ、直ニ之ヲ馬公要港部ニ電報スルト同時ニ、土木局及ヒ通信局ニ交渉シ、爾後通信局ニ於テ監督スルコトヽナレリ、

二十三日淡水尖石山間海底電線斷絶シ、其ノ原因不明ナリシカ、六月二十二日修理竣工ス、此ノ日山縣參謀長ハ、馬公要港部ノ依頼ニ依リ、基隆敷設隊火藥格納所ニ避雷針建設ノ設計竝ニ豫算調製方ヲ、民政部土木局ニ委託ス、

六月二十六日山縣參謀長ハ、澎湖島無線電信所ノ位置ハ不適當ナルヲ以テ、之ヲ變更センコトヲ、大本營海軍參謀ニ交渉セシニ、二十八日山本海軍大臣ヨリ、同無線電信所ハ、之ヲ拱北ニ變更シ、且同地ニ假設望樓ヲ設置ス、トノ電訓ニ接シタルヲ以テ、直ニ之ヲ馬公要港部及ヒ澎湖島ニ派遣中ノ通信技手ニ電報ス、

七月六日山縣參謀長ハ、尖石山ヨリ上海福州香港ニ通スル電信不通ノ報ニ接シタルヲ以テ、直ニ之ヲ大本營海軍幕僚ニ電報ス、尋テ二十五日佐世保海軍經理部ヨリ、馬公要港部各急造砲臺修理改造ノ依頼ニ接シタルヲ以テ、澎湖島要塞司令部ニ委託ノ手續ヲ爲ス、

八月六日拱北假設望樓建築工事落成ヲ告ク、

九日山縣參謀長ハ、山本海軍大臣ノ認許ヲ經テ、澎湖島及ヒ臺灣島防禦建築物修理監督ヲ、土木局技手一名ニ囑託ス、

十八日山縣參謀長ハ、相原佐世保海軍經理部長ヨリ、漁翁島小頭角兵舎修理、竝ニ同附屬便所新設ノ訓令アリタル旨ノ電報ニ接シタルヲ以テ、直ニ工事着手ノ手續ヲナス、

二十七日基隆臨時敷設隊用火藥類格納倉庫避雷針ノ新設工事落成ヲ告ク、

爾來臺灣方面ハ、無事平穩ノ情態ニアリシカ、十一月ニ至リ、露國增援艦隊東航ノ情報頻ニ臻ルニ及ヒ、同月二十二日基隆臨時敷設隊再編制セラレ、陸軍ニ在リテハ、二十四日基隆要塞ノ動員、及ヒ臺灣守備混成第一旅團一部ノ動員ヲ令セラル、

十二月一日山縣參謀長ハ、山本海軍大臣ヨリ、鵞鑾鼻無線電信所ト恆春間トノ電信線架設工事、拱北望樓ト馬公要港部間、及ヒ大甲望樓ト通宵電信局間トノ電話通信ヲ電信通信ニ改造工事、基隆臨時敷設隊ニ要スル假設倉庫建設工事、竝ニ馬公要港部石炭置場用棧橋假設工事ヲ、施行スヘキ電訓ニ接シタルヲ以テ、直ニ着手ノ準備ヲ爲ス、

四日鵞鑾鼻無線電信所ハ、電柱竝ニ家屋及ヒ必要ノ機械共一切總督府ニ於テ既設ノモノヲ借受使用スルコトニ協議決定ス、

十三日基隆臨時敷設隊員運送船近江丸ニテ到着ス、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

十五日山縣參謀長ハ、山本海軍大臣ヨリ、リッシター角及ヒポン角水雷衞所、竝ニ附屬建設物ノ移轉工事ヲ施行スヘキノ電訓ニ接シ、又二十一日ニハ、基隆臨時敷設隊各衞所ノ弧器臺ヲ改造スヘキノ電訓、二十四日ニハ、基隆臨時敷設隊雜品置場建設ノ電訓ニ接シ、孰レモ直ニ之ニ著手ス、

三十八年一月十八日山縣參謀長ハ、山本海軍大臣ヨリ、馬公要港部彈藥庫三棟新設ノ件、二月五日三貂角假設望樓竝ニ無線電信所建設ノ件、竝ニ馬公要港部修理工場材料倉庫假設ノ件ニ關スル訓令ニ接シ、各之ニ著手ス、又陸軍ニ於テハ二月五日、臺灣島及ヒ澎湖島間通信連絡ノ爲メ、布袋嘴監視哨ニ回光通信所ヲ設置ス、

鷲巒鼻無線電信所ハ、總督府ニ於テ既設ノモノヲ襲用シ、一月六日事務ヲ開始セルモ、軍用トシテ其ノ位置ニ缺クル所アルヲ以テ、二月七日山本海軍大臣ハ、海軍技師木村駿吉ノ意見ニ基キ、之カ新設ヲ令ス、

十四日山縣參謀長ハ、山本海軍大臣ヨリ、馬公要港部給水裝置工事施行方ノ訓令ニ接シ、直ニ之ニ著手ス、

三月六日淡水福州間電信不通トナル、其ノ原因不明ナリ、（六月一日修理竣工ス）

八日山縣參謀長ハ、山本海軍大臣ヨリ、澎湖島小頭角水雷衞所用糧食庫假設ノ訓令ニ接シ、直ニ之ニ著手ス、

四月上旬在臺北「サミュール」商會顧問荒井恭次ハ、在厦門日本人某ヨリ、英船「ヘスチング」號數週日前厦門ニ入港シタルニ、下級船員盡ク逃亡シテ出港スル能ハス、空シク碇泊セルカ、逃亡船員ノ言ニ據レハ、同船ハ水雷艇造船材料及ヒ機械類ヲ搭載シ居ルモノ、如ク、又同船長ハ船員逃亡ノ爲メ頗ル窮狀ニ在リテ、本國船主ノ返電ヲ待チ、清國紳商ニ向ヒテ、船舶及ヒ積荷ヲ賣却セント運動スルモノヽ如キヲ以テ、同船長ニ面會シ、搭載品ノ明細ヲ尋ヌル所アリシニ、未タ賣却ノ事ニ決定セサルヲ以テ、之ヲ示サヽルモ、此ノ際廉價ニ之ヲ買取リ、石炭及ヒ軍需品ハ、帝國政府ノ買上ヲ願ヒタク、何分ノ周旋ヲ乞フ、トノ通信ニ接シ、直ニ之ヲ後藤民政長官ニ通知シ、同長官ハ之ヲ齋藤軍事總監ニ照會スル所アリシニ、英炭ハ餘リ希望セサルモ、一噸十六圓以下ナヲハ購入シテモ宜シ、水雷艇材料ハ買入レタキニ付何分配慮アリタク、海軍幕僚員ヲ派シテ取調ヘラレタシ、トノ返電ニ接シタルニ依リ、海軍幕僚磯部海軍中佐ヲシテ、齋藤參吉ト變名シ、厦門ニ出張セシメントシタルモ、（當時山縣參謀長ハ三月十五日龍田艦長ニ補セラレテ退任シ海軍中佐山本正勝參謀長ニ補セラレ未タ著任セサルヲ以テ磯部中佐ハ上田臺灣守備軍司令官ノ許可ヲ受ケ出張ノ準備ヲナス而テ四月七日山本參謀長著任ス）八日伊集院海軍軍令部次長ヨリ、露國增援艦隊ノ新嘉坡沖ヲ通過シタリ、トノ情報ニ接シ、時局切迫セルヲ以テ之ヲ取止メ、厦門三井物產株式會社ニ一切ヲ託セシム、（其ノ後同會社ノ報告ニヨレハ種々手ヲ盡シタルモ積荷ノ明細ヲ示サス而テ婆艦隊接近ノ爲メ形勢一變シ下級船員ヲ募集シ南方ニ向ヒテ出港シ諸事徒勞ニ屬セリト）

九日臺灣總督府海軍參謀長海軍中佐山本正勝ハ、後藤民政長官ト協議シ、戰局ノ必要ニ依リ、臺灣島及ヒ澎湖島沿岸ニ於ル燈臺ハ、馬公要港部司令官ニ於テ、必要ニ應シテ消燈ヲ命シ得ルコトヲ定メ、之ヲ馬公要港部司令官ニ電報シ、又此ノ日臺灣島內各望樓ニ對シ、監視上一層注意ヲ要スル旨警告ヲ發ス、

十一日山本參謀長ハ、敵情監視ニ關シ、伊東海軍軍令部長ヨリ、對岸各要地ニ見張人ヲ派遣スルコ

アジア歷史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ト、竝ニ齋藤軍事總監ヨリ、基隆若クハ淡水ニ出入スル船舶ヲ利用シ、情報ヲ得ルコト、及ヒ數隻ノ「ジヤンク」ヲ臺灣海峽ニ往復漂泊セシムルコト等ノ電訓ニ接シ、各必要ナル手段ヲ講ス、（第二章參照）

十四日兒玉臺灣總督ハ、山本海軍大臣ヨリ左ノ訓令ニ接ス、

艦隊司令長官司令官艦長司令其ノ他防禦部ノ長ニシテ敵國ノ東航艦隊ニ對スル準備ノ必要上臺灣沿岸ニ於ル各地燈臺ノ點燈ヲ不利益ト認メタル場合ニハ臨機燈臺員ヲシテ一時若クハ相當ノ期間其ノ燈光ヲ點火セサルコトヲ得セシメタルニ付此ノ旨相心得又鵞鑾鼻燈臺ハ明十五日ヨリ當分ノ間之ヲ消火セシムヘシ

二十九日山本參謀長ハ、馬公要港部參謀長海軍大佐男爵西紳六郎ヨリ、澎湖島ニ老幼婦女子移住制限ニ關シ、左ノ來議ニ接ス、

當島ニ於テハ戒嚴令施行後糧食ノ關係モアリ老幼婦女子ハ成ルヘク退去セシムルノ方針ヲ取レリ然ルニ定期船便等ニテ往々老幼婦女子ノ移住スルモノアリテ却テ方針ニ反スルアリ依テ其ノ移住ヲ制スルカ然ラサレハ移住ト同時ニ若干ノ糧食ヲ携帶セシメタシ

右其ノ向ト協定ノ上相當ノ處置ヲ採ラレタシ

依テ山本參謀長ハ、後藤民政長官ト協議ノ上、左ノ如ク回答ス、

澎湖島ヘ老幼婦女子移住制限ノ件ハ總督府ニ於テ講究中ナレトモ急ヲ要スレハ司令官ニ於テ制限ヲ立テ告示セラレタル上其ノ旨總督ヘ通報アリタシ

五月五日午後八時ノ頃、烏坵嶼方面派遣ノ監視人ハ、烏坵嶼海岸ヲ距ル南西約三海里ノ處ニ於テ海賊ニ遭遇シ危險ノ虞アルヲ以テ、山本參謀長ハ、チヤペル島ヲ根據トシテ、烏坵嶼方面ノ見張ヲ爲サシム、

十三日臺灣島ニ戒嚴令ヲ布カル、

十四日山本參謀長ハ、西馬公要港部參謀長ヨリ、英國汽船「エルドラド」號海底電線切斷機ヲ備ヘ、臺灣ニ向フ疑アルニ付安平、澎湖島間海底電線ノ保護ニ關シ、如何ナル手段ヲ取ラルヽヤトノ問合セニ對シ、海底電線保護ニ就テハ、遺憾ナカラ當方ニ其ノ機關ナシ、ト返電シ、尙民政長官及ヒ陸軍幕僚參謀長ニ照會スルニ、出來得ル限リ保護ノ方法ヲ講セラレンコトヲ以テス、

同日三貂角假設望樓建築工事竣工ス、

十八日山本參謀長ハ、西馬公要港部參謀長ヨリ、澎湖島方面及ヒ澎湖水道ヲ北行スル汽船ノ安平及ヒ打狗ヲ發スルトキハ、之ヲ管轄地方廳長ヨリ馬公要港部ニ打電セシメラレタキ交渉ニ接シタルヲ以テ、直ニ之ヲ民政部ニ交渉協定ス、

二十五日在臺北三井物産株式會社支店ハ、五月二十日發在厦門同會社支店ヨリ、左ノ通信ニ接シタル旨、臺灣總督府ニ報告ス、

露國政府ニテハ露國艦隊厦門入港ヲ豫想シ之カ費用トシテ左ノ通リ金融ノ手配ヲ爲シタル由ナリ

一、當地佛國領事ロー|ネハ必要ニ應シ香港上海銀行及ヒ「バングエード、インド、チヤイナ」ヨリ都合二十五萬弗ヲ引出スコトヲ得

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/